

2018年1～2月掲載分

習志野 大慈弥 爽子
さし交はず枝の先まで春隣
洗濯も掃除もしたくなる三日
海を恋ふ音たて乾きゆく若布
金縷梅のいちげ加減をひからせる
剪定を尽くしすっからかんの枝

藤沢 藤田 富子
黄落の池にきらめき散らしけり
いにしへの名刹の跡落葉降る
凧わたる海一望の冬日和
眼科医の俳句談義や十二月
短日の刻の過ぎゆく探しもの

八王子 石井 蓉子
行商の声の届きしも柚湯かな
明日冬至店の角占めゆず売り場
通院を終へそれよりの年用意
作業所につけば声来る霜の朝
クリスマスサンタ待ちたる早寝かな

町田 小森 まさひこ
水仙の咲きて日本海荒ぶ
雪壁を登校路とせる小学生
大雪を靴に語らせ集ひたる
薄氷を進みゆく日の刻々と
雪富士のダイヤモンドの夕日かな

2018年3～4月掲載分

習志野 大慈弥 爽子
白き根を青く匂はせ芹を積む
椽の芽の光り大きくほぐれ来し
猫の子の興味深々なる眼
七色に匂ひ十色に木の芽吹く
ためらうてとまどうて初桜かな

藤沢 藤田 富子
みどり児のおすわり出来て春そこに
恙なきことのみ願ひ春を待つ
凍解の道踏みしめて歩をはこぶ
尻もちの人を笑へぬ雪の街
こつこつと働きくれし針納む

八王子 石井 蓉子
懸命に生きたる吾に梅開く
公園の子供は無邪気春夕焼
日脚伸ぶ工賃得たる帰り道
春の香を匂ひ立たせる光かな
夕暮れや春待つ神社静かなり

町田 小森 まさひこ
山肌を隠し立山螢烏賊
大海の香も煙らせて目刺焼く
春雨や乳房まさぐる像の立つ
白き山に空青くして花辛夷
大ばさみ操り羊毛を刈られ